

臨床実習生心得

実習をはじめるとに当たり以下の点に留意して下さい

スローガン (松尾 國城先生作)

I 期 臨床に慣れてもらう

II 期 患者さんを診てもらう

III 期 意見を言ってもらおう

1. 目的

実習を通じ、リハビリテーションにおける評価および治療技術を身につけると同時に、社会人、医療人としての人間形成を目標とする。また、クリニカルクラークシップ制を導入し、幅広い臨床経験を積むものである。

2. 用意するもの

- ケーシー・実習靴 (医療人としてふさわしい服装であること)
- 角度計・打腱器・メジャーなど (貸し出しも可)
- 提出書類 (成績表・出欠表など)
- 卒業研究をするものは計画書等、必要物品の用意をする

3. 課題

- 初期評価発表 レジューメ作成 (本文 B4 1枚 図表 B4 1枚)
- 文献抄読 (本文 B4 2枚 図表 B4 1枚)
- クラークシップ 説明を受けた症例のレポートを記載
- 最終評価発表 (本文 B4 1枚 図表 B4 1枚)

※発表時間 評価発表 7分 文献抄読 10分 質疑応答は各5分

※文献抄読および最終評価発表後は反省会を行う

※短期実習においては実習期間が4週間以上の場合は担当症例の経過報告を行う。発表時間は上記の評価発表と同じとする。

注) 提出期限は厳守し進捗状況をバイザーに報告する事

基本的にレポートの作成は行わない (学校からの課題であればレジメを参照し行う)

4. 厳守事項

- 欠席・遅刻をする場合は、必ず部長かSV、不在の場合はその他スタッフに連絡すること。
※原則として欠席分は追加実習とする
- 発表用のレジューメは前日までに所定の位置に置くこと。(所属長へは手渡しをすること)
※分院・訪問への提出分はバイザーに提出
- 医療人であることを自覚し、他の職員や患者さんと接し、言動に注意すること。

5. その他

- 昼食は各自持参か弁当注文 (約300~500円) をする。
- 四輪車での通勤は禁止である。(駐車スペースないため)
- 図書の貸し出しの際には、図書名を記載しバイザーおよびスタッフのサインをもらう。
(雑誌2冊 本1冊 2泊3日まで)
- コピーの使用は発表用のレジューメのみとする。(私的コピーは禁止)
- 実習時間中 (昼休みを含む) やむなく外出する場合はバイザーの許可を得て、着替えて外出すること。
- 実習時における感染症対策を行うこと。(マスク着用など)
- 成績はバイザー会議で開示し、その後、学生にも結果内容およびその理由を説明する

医療法人 新松田会 愛宕病院 リハビリテーション科
部長 大畑 剛 学生担当 池田・木村